

中国黒龍江省における農業国際化の現状と今後の課題*

黒龍江省社会科学院北東アジア研究所副研究員 張鳳林

はじめに

農業の国際化は農業生産の拡大と国際分業の進行による必然的な結果である。黒龍江省は中国最大の農業省であり、中国の重要な食糧生産基地である。近年、黒龍江省の農産物の生産と輸出は増えつつあり、外国との国際協力関係も深化している。農業国際化の下で、黒龍江省の農業の発展は国際市場と深く結びついている。今後、どのように農業の優位性を生かし、農業国際化を加速させるかは黒龍江省の農業発展にとって重要な課題となっている。本稿は、黒龍江省の農業国際化の基礎、農産物の輸出入現状および問題点を分析し、農業国際化のトレンドと対策を検討する。

1. 農業国際化の基礎

1.1 自然資源と生態環境の優位性

黒龍江省は中国最大の耕地面積を保有し、2010年時点の耕地面積は1,198万ヘクタール（以下ha）に達している。一人あたりの耕地面積は0.31haで全国第一位となっている。また、土地の予備資源（開発可能な土地）が144万haに達し、全国の約1割を占めている。黒龍江省の松嫩平原と三江平原は、世界の三大黒土地域の一つである。この地域は土質が肥沃で、地形が平坦で、耕地面積が広大である。その水源は豊富である。農業生産に適した黒色土は、耕地総面積の約8割を占めている。このような良質な土壌条件は高品質な農産物の生産を後押ししている。また、黒龍江省の牧草面積は433万haであり、良質な牧草および豊かな自然条件の中で、畜産の発展と有機畜産物の生産の機運が高まっている。2010年には、黒龍江省の牛乳と乳製品の生産量は全国第二位を占めた。さらに、黒龍江省は中国最大の林業省であり、森林資源が非常に豊富で、被覆率が45.2%に達している。良質な林地資源と生態環境は、山の特産物および有機農産物などの生産・開発にも適合する。

1.2 国際協力における地理的優位性

黒龍江省は北東アジア地域の中心に位置している。現在、北東アジア諸国の農業発展には不均衡があり、農業国際協力の需要と潜在力も異なっている。日本と韓国は、工業が発達しているが、農業資源が相対的に少ないため、農産物

を大量輸入している。ロシア（とりわけ、極東地域）、モンゴル、北朝鮮などは、農業が相対的に立ち遅れているが、耕地が豊富であるため、土地開発の潜在力はきわめて大きい。農産物の貿易の視点から見ると、ロシア、日本、韓国および北朝鮮は昔から黒龍江省の農産物の主要輸出先となっている。この中で、ロシア向け輸出のシェアは最も大きく、輸出総額の半分以上を占めている。農業国際協力の視点から見ると、黒龍江省は日本との協力の歴史が長く、ロシアとの協力も1990年代半ばから始まっている。また、黒龍江省には比較的熟練した農耕技術があり、北東アジアの食糧生産と加工基地となる可能性が大きい。したがって、農産物貿易および農業協力において、黒龍江省と北東アジア諸国との間では、強い補完性があると言える。

1.3 食糧生産総量の増加

黒龍江省は中国および北東アジア地域の食糧生産基地として、水稲、トウモロコシ、小麦、大豆などの生産量と商品化率が中国の先頭に立っている。近年、黒龍江省の食糧生産は年々増加し、2011年の生産総量は5,571万トンに達し、うち、商品化した穀物が4,500万トンとなっている（表1）。黒龍江省は中国食糧生産の最も大きい省であり、商品化した穀物の最大生産基地となった。言うまでもなく、近年における食糧生産の増加は、対外輸出増加の前提である。

表1 黒龍江省主な農産物生産の推移（2005～2010年）
（単位：万トン）

年	食糧								植物油の原料	野菜キノコ類	果物
	生産総量	穀物				豆類		イモ類			
		水稲	小麦	トウモロコシ	コーリヤン	総産量	大豆				
2005	3,600	1,172	97	1,380	26	801	748	85	61	1,154	306
2006	3,780	1,360	93	1,454	25	689	653	104	63	1,136	367
2007	3,965	1,658	77	1,569	16	527	491	89	50	1,059	322
2008	4,225	1,518	89	1,822	17	667	621	57	29	1,058	308
2009	5,353	1,574	116	1,920	22	619	592	93	28	701	218
2010	5,012	1,843	92	2,324	18	602	585	126	28	724	233
2011	5,570	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

（出所）『黒龍江統計年鑑』2011年版より作成。

* 本稿は、2011年黒龍江省哲学社会科学研究所『新情勢下黒龍江省参与東北亞区域経貿合作戰略選択研究』（プロジェクトNo. 11B019）の研究結果の一部である。

1.4 北東アジアにおける黒龍江省の有機農産物の生産

現在、世界市場における有機農産物の需要がますます拡大している。黒龍江省の良質な土地と良好な生態環境は、有機農産物の生産と開発に適している。2011年末時点で、黒龍江省の有機農産物および生態農産物の生産許可面積は430万ha、10,800カ所に達した。この中で中国農業部の許可を受けた国家級の有機農産物標準化生産基地は132カ所、その面積は340万haに達し、全国の約半分を占めている。黒龍江省では、「寒地黒土」、「北奇神」、「北大荒」、「大興安嶺」、「完達山」、「烏蘇里江」など有機食品・特色農産物ブランドが開発された。トウモロコシ、大豆、水稻、乳製品、肉類、山菜、飲料品、特色産品という8種類の農産物については、生産・加工・販売を一体化した産業体系が既に形成されている。黒龍江省の農産物は世界の40カ国・地域に輸出されている。今後、黒龍江省の有機農産物の耕作面積と産量はさらに増加し、対外輸出の潜在力もいっそう拡大する見込みである。

1.5 大手農業企業の競争力

黒龍江省農墾区は中国農業インフラが最も完備した地域である。その理由として、次の3点が指摘できる。

第一に、農業現代化の水準が高い。2010年、農業生産の機械化率は96%、科学技術の貢献度は67%に達した。作物栽培の標準化を徹底している。

第二に、農業科学技術による支援体系が完備されている。農墾区は、大学および研究所との連携により農業技術支援体制を構築し、国際水準を目指して農業技術を革新しつつある。同技術は途上国の農業技術より優れている。

第三に、高い経済力を有する。2010年における農墾区の総生産は693億元に達し、「北大荒」、「完達山」、「九三」などの中国著名ブランドをもっている。2009年、農墾区傘下の北大荒集団は、農業分野における中国の最大企業に成長し、中国大手企業の中でも第96位にランクインしている。農墾区の傘下には、大手企業が16社あり、米、小麦粉、油、乳業、肉、薬品、イモ類など10種類の基幹産業を抱えている。一部の企業は欧州、アメリカ、日本などから有機食品生産企業の認定を受けている。そのため、農墾区は中国最大の有機農産物生産基地になっている。

2. 農業国際化の現状

2.1 農産物輸出規模の拡大

農産物の輸出入は農業国際化の重要な指標である。2007年以前、黒龍江省の農産物輸出は、トウモロコシや、小麦・小麦粉、米、大豆などの大口農産物に集中した。2007年12

表2 黒龍江省における農産物輸出入の推移(2005～2011年)

(単位：億ドル、%)

	輸出入総額	成長率	輸出総額	成長率	輸入額	成長率
2005	9.8	41.0	8.5	50.9	1.3	-1.3
2006	12.1	23.3	10.7	26.0	1.4	6.4
2007	13.4	11.1	11.9	11.2	1.5	10.2
2008	18.2	35.9	14.8	25.0	3.4	120.7
2009	21.5	18.4	12.2	-18.0	9.4	178.4
2010	32.0	48.5	19.8	62.3	12.3	31.0
2011	34.0	6.5	21.1	6.8	12.9	5.6

(出所) 黒龍江省商務庁HPの公表データより作成。

月以降、これらの大口農産物に対する輸出関税還付という国の優遇策は中止され、これが黒龍江省の農産物輸出に影響を落とした。

しかし、大口農産物の輸出が縮小する一方、有機農産物、特産物などは輸出が増加しつつある。国際市場に対する依存度が高まり、農産物の貿易額はますます拡大している。その貿易額は、2005年の9.8億ドルから2011年の34.0億ドルとなり、3.5倍増加した。その間、世界金融危機の影響を受けながらも農産物の輸出は上昇の態勢を維持した(表2)。

なお、2009年以降、黒龍江省における農産物の輸入も大幅に増加している。増加の主因は大豆の輸入によるものである。黒龍江省はかつて大豆の産地と加工基地であったが、近年その競争力が低下したため大豆の生産は減少し、代わりに輸入が拡大している。2009年の大豆の輸入額は前年比210%増の8.3億ドルとなり、2010年には11億ドルを超えた。

2.2 農産物輸出種類の増加

2007年以前、黒龍江省の農産物輸出は主に穀物、穀物粉であったが、2007年以降、その輸出は減少した。その一方で野菜、果物、ドライフルーツ、ナッツなどの有機農産物の輸出が増えている。野菜の輸出額は、2005年の6,257万ドルから2010年の1億3,980万ドルに拡大した。果物数の輸出額は、2005年の7,446万ドルから2008年の1億4,690万ドルに倍増し、近年最高を記録した(表3)。また、アブラナ、薬材、松の実、缶詰マッシュルームなどの輸出も大幅に増加している。黒龍江省商務庁の統計資料によると、2005～2010年の間に、輸出農産物の品目数は350種類に上り、うち主要な輸出品目は40種類であった。

2.3 貿易相手の多角化

表4に示したように、2005年以前、黒龍江省の輸出先は主にアジア諸国に集中していた。その後、農産物市場の拡大に伴い、欧州、中南米、中東地域への輸出も拡大してきている。2010年までに、黒龍江省の農産物輸出先は40カ国・

表3 黒龍江省における主要農産物輸出の推移 (2005～2010年)

(単位: 万ドル)

年	2005	2006	2007	2008	2009	2010	
輸出総額	18,478.3	8,478.3	6,693.0	—	2,859.0	3,017.0	
穀物	比重(%)	21.8	7.9	5.6	—	2.4	1.5
	増加率(%)	160.3	-54.3	-20.8	—	—	0.6
肉類	輸出額	8,174.5	11,778.4	5,941*	—	—	1,538.0
	比重(%)	9.7	11.1	5.0	—	—	0.8
	増加率(%)	19.0	44.1	-55.7	—	—	—
果物、ドライフルーツ、ナッツ	輸出額	7,445.8	8,192.2	11,186.0	14,690.0	13,484.0	12,061.0
	比重(%)	8.8	7.7	9.4	9.9	11.1	6.1
	増加率(%)	33.7	10.0	36.5	31.3	-8.2	-10.6
野菜	輸出額	6,257.3	7,508.6	8,429.0	11,712.0	10,802.0	13,980.0
	比重(%)	7.4	7.0	7.1	7.9	8.9	7.1
	増加率(%)	17.2	20.0	12.3	39.0	-7.9	29.4
大豆	輸出額	2,367.9	1,463.2	—	9,195.0	—	—
	比重(%)	2.8	1.3	—	6.2	—	—
	増加率(%)	-25.2	-39.4	—	688.8	—	—
アブラナ	輸出額	—	—	1,964.0	10,397.0	3,258.0	2,612.0
	比重(%)	—	—	1.7	7.0	2.7	1.3
	増加率(%)	—	—	-7.5	429.4	-68.7	-24.8

(注※) 2009～2010年の肉類のデータは、牛肉、豚肉および鶏肉の合計。
(出所) 黒龍江省商務庁『対外貿易報告』各年版、『黒龍江統計年鑑』2011年版より作成。

地域、海外にある農産物の販売店は100店を超えており、同省の農業国際化のネットワークがある程度構築されたとと言える。

2005年における黒龍江省農産物輸出先は、ロシア、香港、日本、韓国、朝鮮、台湾とベトナムに集中していた。その中で、ロシア向けの輸出額は5.1億ドル、農産物の輸出総額の47.8%を占めた。2009年時点で、ロシアは依然として黒龍江省農産物の最大の輸出先であり、輸出全体の68.2%を占めた。日本、韓国向けの輸出額にはほとんど変化がなく、約8,000万ドルの水準を維持しており、輸出総額の6～7%を占めている。日本、韓国の輸出額は少なかったが、貿易相手順位で見ると、日本は2005年の第三位から2009年に第二位となり、韓国は2005年の第四位から2009年の第三位となった(表4)。

2.4 海外への農業開発・投資

黒龍江省はこれまで外国先進技術の導入を通じて農業生産の技術水準を引き上げてきた。1980年代初めから、技術交流、新品種の導入・育成、生産量の高い栽培技術、地域農業開発などの分野において、外国との技術交流を行ってきた。とりわけ、日本の稲栽培専門家である藤原長作氏から「畑苗移植栽培」技術を導入したことで、稲生産の拡大

表4 黒龍江省における農産物輸出先の変化 (2005年、2009年)

(単位: 億ドル、%)

2005年農産物輸出額8.5億ドル			2009年農産物輸出額12.2億ドル		
上位7位の国、地域	輸出額	輸出総額に占める比重	上位7位の国、地域	輸出額	輸出総額に占める比重
ロシア	5.1	47.8	ロシア	5.6	68.2
香港	0.8	8.0	日本	0.8	6.6
日本	0.8	7.9	韓国	0.7	6.1
韓国	0.7	7.0	アメリカ	0.6	4.9
北朝鮮	0.7	6.2	ドイツ	0.4	3.2
台湾	0.4	4.1	オランダ	0.2	1.9
ベトナム	0.3	3.3	香港	0.2	1.7

(出所) 『黒龍江省商務統計年鑑』2010年版より作成。

に大きく貢献した。また、カナダのゲルフ大学の専門家は、カナダの小麦栽培先端技術の導入に貢献した。その結果、1 ha当たりの小麦生産量は4,050kgに引き上げられた。また、松嫩平原の牧草地帯地質改良プログラムにおいては、日本、カナダなどの専門家と共同研究を行い、土壌の荒廃化、アルカリ化、塩類化を改善した。現在、牧草の生産量は毎年100万トン以上増加している。

黒龍江省から海外への農業開発・投資についても成果が著しく、次の3点に集約できる。

第一に、ロシアにおける農業開発で大きな成果を上げたことである。黒龍江省の企業は、豊富な労働力、熟練した農業栽培技術と養殖技術を活用し、土地のリース方式でロシアの土地資源を利用して同国で大豆、トウモロコシ、水稲、野菜、ジャガイモなどの栽培・加工分野に投資した。2010年現在、黒龍江省ではロシアの企業と土地リース契約を結んだ行政地域が34県・市に達し、その契約面積は約35万ha、食糧、野菜、養殖などのプロジェクトは158件に上っている。そのうち、経営規模が4,000ha以上の「中口農業協力モデル区」は10件となっている。

第二に、ロシアにおける農業開発・投資規模の拡大である。黒龍江省東寧県は、土地リース方式でロシア耕地16万haを確保し、同農場で生産した食糧と野菜の生産高は、それぞれロシア極東地区の総生産量の59%と88.6%を占めた¹。黒龍江省の華信集団は、ロシア沿海地方に1,500万ドルを投資し、中口最大の農業協力プロジェクトを立ち上げた。その協力プロジェクトには、6,000haの農場開発、大豆、トウモロコシなどの年間生産量8,000トン、豚の生産量1万頭という内容が含まれている。

第三に、黒龍江省農墾局をはじめ、大手農業企業の「走出去戦略」(海外進出)が大きなブレイクスルーを達成した。

¹ 『黒龍江東寧県が積極的に対ロシアの農業開発』、<http://aod.cnr.cn.2011-07-26>

2005～2010年の間に、黒龍江省農墾局傘下の北大荒集団は、ロシア、ブラジル、フィリピンなどの国・地域に2.5億元を投資し、土地8万haをリースして農業開発を行った実績がある。また、北大荒集団はアメリカ、香港、モンゴル、北朝鮮などにも子会社15社を設立し、今後の海外土地リース・開発計画として、2012年までに33万ha、2015年までに66万haの農地開発が計画されている。

3. 農業国際化の制約要素

3.1 農産物輸出市場における過度の集中

近年、黒龍江省農産物の輸出先が多様化し、貿易相手も増加傾向を呈しているが、「輸出市場における過度の集中」という問題が依然存在している。表4に示したように、2009年における黒龍江省農産物輸出先の中で、上位7位までの輸出額は、全体の92.6%を占めている。このうち、ロシアのシェアだけで全体の68.2%を占めている。つまり、黒龍江省における農産物の輸出は、主に上位7カ国・地域を中心に展開してきたと言える。このような集中度が高い輸出市場の構造は、ますます輸入相手国への依存度を高めていくことになる。今後、輸出相手国の政治・経済および貿易政策の変化によって、黒龍江省農産物の輸出に大きな影響をもたらすことが考えられる。

3.2 農産物の低付加価値・低競争力

先進国と比べると、黒龍江省の農産物加工水準はまだ低い。一般的に先進国における農産物の加工率は80%を超えているが、黒龍江省のそれは50%程度にすぎない。うち、二次加工率は20%にとどまる低水準にある。黒龍江省の輸出農産物の中には、未加工（あるいは簡単加工）の商品が多く、これらの商品の付加価値は低く、低価格競争に頼らざるを得ない。そのため、国際市場での競争力が低い。ブランド育成において、黒龍江省における農産物のブランドの数は多いが、全体的には国際的に認可されたブランドは少ない。たとえば、稲のブランドについて黒龍江省には、虎林緑都集団の「珍宝島」、慶安哈慈天然食品有限公司の「七河源」、牡丹江市响水米業有限公司の「响水」、五常市米協会の「五常」、農墾区の「北大荒」、鶏西興達製米有限公司の「碧珠」など100種類以上あるが、いずれも生産規模が小さくて競争力が低い。

3.3 政策支援システムの不備

農業の海外投資は自然条件、技術条件、農産物の価格変動および投資先国・地域の政治変動、経済政策の変化などに影響され、場合によって投資のリスクはかなり大きい。

現在、中国は財政、金融、保険などにおいて、農業企業の海外投資に関する政策支援システムはまだ完備されていない。農業企業は国内で農業プロジェクトの優遇政策と支援を受けているが、海外への投資にはこのような優遇政策が適用されていない。たとえば、現在海外で投資を行っている黒龍江省の農業企業は、多くの投資プロジェクトが中国政府（または黒龍江省政府）の「走出去戦略」特定補助金の奨励・資金援助基準に適合していない。このほか、工業投資プロジェクトと比べても、農業投資の資金調達は非常に困難であるという課題もある。

4. 農業国際化の発展トレンド

4.1 農業標準化の実行

農業の標準化は農業国際化の核心問題であり、国際市場進出のための「入場券」とも言える。今後、黒龍江省における農業国際化のプロセスにおいて、国際標準を研究し、国際先進技術と食品安全システムのノウハウを学び、積極的に国際先進標準を採用し、農業生産標準と品質標準を制定・整備することが重要となる。

4.2 日本、韓国との農業協力

中国における農業大省としての黒龍江省は、日本、韓国との農業分野の交流で地理的な優位性がある。日本、韓国は農業資源が貧しく、農産物の輸入は多くて対外依存度が高い。黒龍江省と日本、韓国の農業協力については、次の二つの協力方式が考えられる。

一つ目は、投資誘致・共同開発型の農業協力である。具体的には、日本、韓国から資金、生産・加工技術を誘致して、黒龍江省で農産物を加工したうえで輸出する、という投資誘致・共同開発型である。このような協力は、日本、韓国にとっても食糧安全保障における意義が大きいと考えられる。

二つ目は、輸入農産物の品質、規格、安全などに関する日本、韓国の高い標準に合わせ、黒龍江省でハイレベル農産物の輸出基地を育成する。日本、韓国の企業と協力して、日本、韓国向けの農産物生産基地と加工基地を建設し、日韓両国の食品標準に基づいて生産された商品を日本、韓国に輸出する。これは協力双方にとって有益な方式である。

4.3 有機農業への注力

世界のトレンドとして、農産物の品質と食品の安全に対する関心は日ごとに高まり、有機農産物は将来の農業生産で大きな比重を占めるに違いない。黒龍江省は、有機農産物の生産に適合した自然条件を備えている。そのため、安

全な食品を提供することができる。これは黒龍江省農業の優位性であり、すでに内外市場においてその優位性は認知されている。

今後、農業国際化の発展に伴い、農業生産配置の再編は加速化すると予想される。このことは黒龍江省農産物の輸出にとって良いチャンスとなっている。黒龍江省における農業構造の調整において、商品の高品質、専門化、規模化から着手し、農産物の品質向上に努め、有機農産物の開発を中心に国際ブランド作りを急ぐ必要がある。また、黒龍江省の農業発展にとって、大手企業が先頭に立って有機農産物の生産を中心とした農産物輸出を推進するという課題に取り組むことが早急に求められている。

【参考文献】

1. 黒龍江省統計局『黒龍江統計年鑑』2011年版。
2. 黒龍江省商務庁『黒龍江省商務年鑑』2009年版、2010年版。
3. 黒龍江省商務庁『黒龍江省対外貿易報告』各年版。
4. 曲伟編『黒龍江省経済発展報告』2012年版。
5. 郭振(2008)「提高黒龍江省農業国際競争力問題研究」『黒龍江省対外貿易』Vol.10、10～24ページ。
6. 劉小寧(2008)「黒龍江省発展農産物加工対策研究」『求是学刊』Vol. 3、53～57ページ。

The Present Situation and Future Tasks for the Internationalization of Agriculture in Heilongjiang Province, China

ZHANG, Fenglin

Associate Professor,

Northeast Asia Research Institute, Heilongjiang Provincial Academy of Social Sciences

Summary

The internationalization of agriculture is an inevitable result of the participation of agriculture in the international division of labor. As a leading granary of China, Heilongjiang Province is one of the country's major grain production bases, as well as commodity grain production bases, and thus has the basis and advantages for the internationalization of agriculture. In recent years, both the agricultural output and trade of Heilongjiang Province have been increasing year by year, and the agricultural cooperation with other countries and regions has also been gradually deepening. In the context of the internationalization of agriculture, Heilongjiang Province faces the important future tasks of making the most of its advantages and accelerating internationalization. This paper will analyze the basis for the internationalization of agriculture in Heilongjiang Province, the current situation and the problems for foreign agricultural trade, and then examine the ideas on and measures for the province's internationalization of agriculture.

[Translated by ERINA]